報告

# 名古屋市猪高緑地のため池に設置されたアナゴ罠で捕獲されたヌートリア

曾根 啓子<sup>(1)</sup> 野呂 達哉<sup>(1)</sup> 髙木 和彦<sup>(2)</sup>

- (1) なごや生物多様性センター 〒468-0066 愛知県名古屋市天白元八事5丁目230番地
- ② 名東自然俱楽部 〒465-0021 愛知県名古屋市名東区猪子石3丁目1215番地

# Unique capture cases of coypus (*Myocastor coypus*) by the conger trap in small ponds of Itaka Ryokuchi Park, Nagoya city, central Japan

Keiko SONE (1) Tatsuya NORO (1) Kazuhiko TAKAGI (2)

- (1) Nagoya Biodiversity Center 5-230, Motoyagoto, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi, 468-0066, Japan
- (2) Meito Nature Club, 3-1215 Inokoishi, Meito-ku, Nagoya, Aichi, 465-0021, Japan

Correspondence:

Keiko SONE E-mail: sonekei@hotmail.co.jp

#### 要旨

2018年および2019年の夏季に、名古屋市名東区にある猪高緑地のため池(めだか池および井堀下池)に設置されたアナゴ罠にヌートリア Myocastor coypus が侵入し、捕獲されるという例が3件あった。この罠内にはウシガエル Lithobates catesbeiana やアメリカザリガニ Procambarus clarkii などがいた可能性があり、ヌートリアはこれらの水棲動物をもとめて罠内に入り込んだことが予想された。そこで、捕獲個体を剖検し、その消化管内容物について観察を行った。その結果、植物の断片しか検出されず、いずれの水棲動物の痕跡も認められなかった。したがって、今回の罠への侵入は、物陰や隙間に入り込むというヌートリアの習性によるものであり、水棲動物の捕食を目的としたものではない可能性が極めて高いと考えられた。

#### はじめに

ヌートリア Myocastor coypus は半水棲で大型の齧歯類であり、名古屋市を含む関東以西の多くの水辺で野生化が認められている(Iwasa, 2009). ヌートリアはヨシ Phragmites australis などの水辺に自生する草本類を主食としており、農地のイネや野菜などを食害することもあることから(曽根ほか、2006)、純粋な草食性であると考えられる. しかし、その一方で、岡山県のため池や大阪府の淀川、岐阜県の木曽川水系などにおいて、淡水性二枚貝を捕食した例(森、2002;久米ほか、2012;石田ほか、2015)もあることから、淡水性二枚貝以外の水棲動物もヌートリアの餌になっている可能性がある.

2018年および2019年の夏季に、名古屋市名東区にある猪高緑地のため池(めだか池および井堀下池)におい

て、ウシガエル Lithobates catesbeiana を捕獲する目的で設置されたアナゴ罠にヌートリアが侵入し、捕獲されるという例が3件あった。もし、ヌートリアが罠へ侵入した目的が、罠内にいた可能性のある水棲動物(ウシガエルやアメリカザリガニ Procambarus clarkii)を捕食することであったとしたら、捕獲個体にはこれらを捕食した痕跡が認められる可能性が極めて高い。そこで、今回は捕獲されたヌートリアを剖検して、その消化管内容物について観察を行い、捕食した痕跡の有無を確認したので、その結果について報告する。

#### 猪高緑地におけるヌートリアの目撃情報

猪高緑地は、名古屋市東部の名東区と長久手市の境に 位置する総面積66.2 haの緑地公園である. 近隣の市街 化が進む中, 広葉樹林の森や棚田が残されており, 起伏 に富んだ地形の中には10か所以上の大小のため池が形 成されている(名古屋市緑政土木局,2018)。今回ヌー トリアが捕獲されためだか池および井堀下池(約0.7 ha) もそのようなため池の一つで、かつては周辺に豊富に あった棚田の水源として利用されていた. 最近までは圦 部分からの水漏れのために数年にわたり草原状態であっ たが、2017年に漏水対策が行われ、棚田の水源として 再利用されるに至っている. ただし, 部分的な漏水が現 在でも続いているため、水位は低い、めだか池も水位が 低く、両池ともに岸辺部分はヨシなどの植物に覆われて いる (図1). 猪高緑地内でヌートリアが目撃されるよ うになったのは2018年1月頃で、緑地北部にある最大の ため池 (塚ノ杁池, 3.2 ha) 周辺であったが、2018年7 月には緑地東部のめだか池下流の水田でもヌートリアに よる稲の食害が確認されるようになった(髙木、私信). さらに2019年7月には、めだか池から150m程上流の井 堀下池にも出現するようになったことから、緑地内で分 布域を拡大している可能性が高いと考えられる.

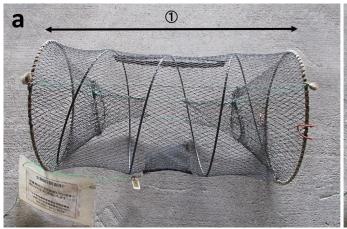
#### 捕獲・収集に至るまでの経緯

今回、ヌートリアが侵入したのは、アナゴ漁用の円筒 形のカゴワナで、通称「アナゴ罠」と呼ばれているもの である(図2)。左右に1箇所ずつある罠の入口は、中に 入った生物が脱出しにくいように中央に向かって徐々に



図1. 猪高緑地めだか池の外観. 水位が低く, 岸辺部分には ヨシなどの植物が生い茂っている (2019年6月21日撮 影). 図中の矢印は, 池内に設置されたアナゴ罠を示 している.

狭くなっていく形状をしているのが特徴で(芦澤ほか、2018;図2b)、アメリカザリガニやウシガエルなどの水辺の水棲動物の防除用の罠としても用いられている(戸田・苅部、2010;八木、2018)。今回、「なごや生物多様性保全活動協議会・動物調査と保全対策部会」がウシガエルの防除を目的として、このアナゴ罠をめだか池に10基、井堀下池に20基、それぞれ設置した。捕獲されたカエル類やカメ類の窒息死を防ぐために、フロートとして空のペットボトルを罠の内部に投入し、罠の上側が常に水中から出るように配慮した。誘因用の餌は使用し



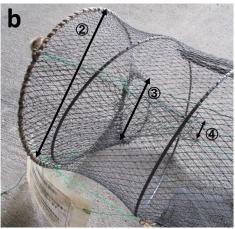


図2. ヌートリアが侵入したアナゴ罠の全景(a)と入口部分(b). 筒の長さ(①)は58 cm, 左右の正円の面の直径は33 cm(②),網の目合は1.5 cmである.入口は左右に1箇所ずつあり、側面が内側にくぼんでいて、中央近くに直径13 cmの円形の開口部(③)がある. 罠の入り口は開口部から中に向かって徐々に狭くなり、開口部から約12 cmの位置で、約10 cmの幅で直線状に緩く閉じている(④).

なかった. その結果, 2018年7月11日に, この緑地で保全活動を行っている「名東自然倶楽部」の会員である高木が罠の見回りを行っていた際, めだか池の1基にヌートリア1頭がかかっているのを発見した. なごや生物多様性センターの職員である野呂によって同施設に収容され, 安楽死させられた後に冷凍庫で保管された. 翌年6月21日には, 同じめだか池において, 設置されたアナゴ罠10基のうちの1基にヌートリア1頭がかかり, 捕獲された(図3). さらに7月6日には, 井堀下池においてもヌートリア1頭が捕獲された. これらの個体についても, 1頭目と同様の手順でなごや生物多様性センターに収容された.

### 捕獲個体の分析と標本化

#### (1) 捕獲個体の性別, 月齢ならびに外部形態計測値

捕獲された3頭 (Field No. 180711, 190621, 190706) について、外部形態計測、剖検、ならびに頭部の晒骨を行った。これら3個体の性別、月齢ならびに外部形態計測の結果を表1に示した。1頭目(Field No. 180711)はメスで、子宮には流産した痕跡が認められたことから、性成熟に達していると考えられた。また、この個体の月齢は、臼歯の萌出および咬合面の摩滅の状態(曽根ほか、2009)から、 $11\sim12$ か月齢と推定された。2頭目(Field No. 190621)および3頭目(Field No. 190706)はオスで、精巣上体の状態(Willner et al., 1979)から、性成熟に達していると考えられた。また、いずれの個体も7~10か月齢と推定された。

#### (2) 消化管内容物の観察

剖検時に,腹部消化管(胃から直腸まで)を摘出し,



図3. 猪高緑地のめだか池でアナゴ罠にかかったヌートリア (Field No. 190621). 図の左手前のペットボトルは、 罠内に入った生物が溺死しないためのフロートとして 入れられたものである.

その内容物を肉眼で観察した.いずれの個体でも消化途中の植物(分類群は不明)の断片しか認められず(図4),ウシガエルやアメリカザリガニといった罠内にいた可能性のある水棲動物の痕跡は全く認められなかった.

#### (3) 標本化

割検した3頭のうち、毛皮の状態が良好であった2頭 (Field No. 190621, 190706) について、仮剥製標本を作製した(図5). これらの標本は、3頭分の頭骨標本とあわせて、なごや生物多様性センターにおいて保管される予定である.

#### 考察

今回, ヌートリアが侵入したアナゴ罠は,「スプリング・アナゴカゴ」の商品名で販売されているもので、本

表1. 猪高緑地のため池で捕獲されたヌートリアの性別, 月齢ならびに外部形態計測値.

Field No.	捕獲日	捕獲場所 (池名)	性別	月齢*	体重 (g)	頭胴長 (mm)	尾長 (mm)	後足長 (mm)	耳長 (mm)	性成熟	備考
180711	2018/7/11	めだか池	2	11-12	3980	431	391	116	22.7	+	流産した形跡あり
190621	2019/6/21	めだか池	8	7-10	4250	480	383	112	27.2	+	精巣重量 右:3.2g, 左:3.4g
190706	2019/7/6	井堀下池	8	7-10	3500	412	364	109	22.6	+	精巣重量 右:2.7g, 左:3.0g

<sup>\*:</sup> 臼歯の萌出と咬合面の摩滅の状態から推定(曽根ほか, 2009)



図4. 猪高緑地のめだか池で捕獲されたヌートリア (Field No. 190621) の腹部消化管. 図の右下に見えるのが胃 (矢印) で, その内容物は植物片で占められていた (スケールバー:3cm).



図5. 猪高緑地のめだか池で捕獲されたヌートリア (Field No. 190621) の仮剥製標本. 図中のスケールは15 cm.

来アナゴなどの魚類捕獲を目的として開発されたもので あるが、アメリカザリガニやウシガエルなどの水棲動 物もよく入るという理由から、これらの外来生物の防 除事業にも用いられている(戸田・苅部、2010;八木、 2018). 一方, これまで同型の罠でヌートリアが捕獲さ れたという報告は認められないことから、今回の例は偶 発的な侵入の産物であるとも考えられる.しかしながら、 侵入が1度にとどまらず、罠の設置の度毎に、3度にわ たって認められたことを考慮すると、その現場にヌート リアの侵入を促す要因があったと考えるのが自然であ る. 当初は、その要因として、罠内にいるアメリカザリ ガニやウシガエルを狙った可能性が想定されたが、捕獲 個体の分析ではこれらの水棲動物を捕食した痕跡は全く 認められなかったので、その可能性は低いと考えられ る. 一方, 別の要因として, ため池の岸辺部分に生えて いるヨシなどの植物を採食しに来た際、その近くにあっ た狭い入り口の筒状の物体に興味を惹かれて入ってしま い、脱出できなくなったというシナリオが考えられる. これは消化管内容物が、消化途中の植物片で占められて いたという事実とも一致している. さらに、ヌートリア のような齧歯類は、元来天敵から身を隠すためなどの理 由から物陰や隙間に入り込む習性を備えており、特に水 辺の土手に円筒状の巣穴を掘って暮らしているヌートリ ア (Willner, 1982) にとって、入り口が狭く、中に向かっ

て筒状に伸びているアナゴ罠の形状は、馴染み深いものと推察される。今回のアナゴ罠の直径(約30 cm)と、ヌートリアの巣穴の入り口の長径がほぼ等しいということ(Willner, 1982)もこの考えを支持している。以上のことから、今回のアナゴ罠への侵入は、物陰や隙間に入り込むというヌートリアの習性によるものであり、罠で捕獲された水棲動物の捕食を目的としたものではない可能性が極めて高いと考えられた。

#### 謝辞

自然環境研究センターの戸田光彦氏には、ウシガエルの捕獲にアナゴ罠が有効であるとのご教示を頂きました。また、ヌートリアの捕獲にあたって名東自然倶楽部の皆様にご協力を頂きました。この場を借りて感謝いたします。

## 引 用 文 献

芦澤 淳・久保田龍二, 高橋清孝. 2018. アメリカザリガ ニの駆除に使用する罠の効果的使用方法の検討. 保全 生態学研究, 23:75-86.

石田 惣・木邑聡美・唐澤恒夫・岡崎一成・星野利浩・長 安菜穂子. 2015. 淀川のヌートリアによるイシガイ科 貝類の捕食事例, および死殻から推定されるその特徴. 大阪市立自然史博物館研究報告, 69:29-40.

- Iwasa, MA. 2009. Myocastridae. In: SD Ohdachi, Y Ishibashi, MA Iwasa, and T Saitoh (eds.), The Wild Mammals of Japan, pp.182-183. SHOUKADOH Book Sellers, Kyoto.
- 久米 学・小野田幸生・根岸淳二郎・佐川史朗・永山滋 也・萱場祐一. 2012. 木曽川氾濫原水域における特定 外来生物ヌートリア (Myocastor coypus) によるイシ ガイ科二枚貝類の食害. 陸水生物学報, 27:41-47.
- 森 生枝. 2002. ヌートリア野生化個体によるドブガイの 大量捕食. 岡山県自然保護センター研究報告, 10: 63-67.
- 名古屋市緑政土木局. 2018. 名古屋市公園配置図. 名古屋市緑政土木局, 名古屋市. 50pp.
- 曽根啓子・子安和弘・小林秀司・田中 慎・織田銑一. 2006. 野生化ヌートリアによる農業被害. 哺乳類科学, 46:151-159.
- 曽根啓子・子安和弘・小林秀司・織田銑一. 2009. 愛

- 知県の野生化ヌートリアの齢査定 当歳個体を中心 に -. Special Publication of Nagoya Society of Mammalogists, 11:52-64.
- 戸田光彦・苅部治紀. 2010. 小笠原諸島における外来生物 ウシガエルの根絶達成. 日本生態学会第57回全国大 会講演要旨集, 東京.
- 八木 愛. 2018. 都立公園におけるアメリカザリガニ防除 の取り組み. CANCER, 27:155-156.
- Willner, GR. 1982. Nutria: *Myocstor coypus*. In: JA Chapman and GA Feldhammer (eds.) Wild Mammals of North America, pp. 1059-1076. The John Hopkins University Press, Baltimore.
- Willner, GR, JA Chapman and D Pursley. 1979.
  Reproduction, physiological responses, food habitats, and abundance of nutria of Maryland marshes.
  Wildlife Monographs, 65: 1-43.